



最近の県内経済情勢

この「最近の県内経済情勢」は、1月25日に開催される全国財務局長会議の資料として、横浜財務事務所が神奈川県内の経済情勢を取りまとめたものです。

平成24年1月25日（水）

財務省関東財務局

横浜財務事務所

〔照会先〕

横浜財務事務所 財務課 中村・関本

電話 045-681-0932（ダイヤルイン）

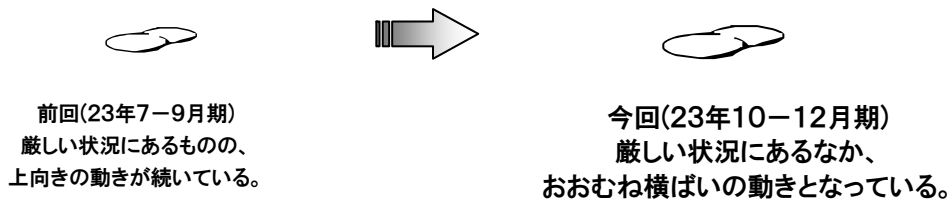
厳しい状況にあるなか、おおむね横ばいの動きとなっている。

(今回のポイント)

最近の県内経済情勢をみると、個人消費はおおむね横ばいとなっており、企業の設備投資は増加見込みとなっている。

こうした需要動向のもと、企業収益は増益見込みとなっているものの、生産活動はおおむね横ばいとなっており、企業の景況感は、全規模(全産業)で「下降」超に転じている。

また、雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。このように県内経済は、厳しい状況にあるなか、おおむね横ばいの動きとなっている。



(凡例)



(各 論)

□個人消費 (↓)

おおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額は、百貨店では宝飾品等高額商品に動きがみられたほか、年末商戦も堅調であったことから、おおむね横ばいとなっている一方、スーパーでは食料品は底堅いものの、衣料品が不調なことから、前年を下回っている。

コンビニエンスストア販売額は、惣菜等が好調なことから、前年を上回っている。

乗用車新車登録届出台数は、新車の供給が回復してきていることから、前年を上回っている。

横浜市の家計消費支出は、前年を上回っている。

□住宅建設 (⇔)

前年を上回っている。

新設住宅着工戸数は、持家、貸家は前年を下回っているものの、分譲住宅は大型マンションの着工がみられるなど前年を上回っており、総じてみれば前年を上回っている。

□設備投資 (⇔)

23年度は増加見込みとなっている。

法人企業景気予測調査(23年10-12月期調査)で23年度の設備投資計画額をみると、全産業で前年度比0.9%の増加見込みとなっている。製造業は同3.9%の増加見込み、非製造業は

同▲5.7%の減少見込みとなっている。

□生産活動（ ↘ ）

おおむね横ばいとなっている。

業種別にみると、輸送機械、一般機械、電気機械は増加し、化学、情報通信機械は減少した。海外需要が弱まっていることやタイの洪水等の影響により、おおむね横ばいとなっている。

□企業収益（ ⇄ ）

23年度は増益見込みとなっている。

法人企業景気予測調査（23年10-12月期調査）で**23年度の経常利益**（除く「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」）をみると、全産業で前年度比1.3%の増益見込みとなっている。製造業は同▲6.6%と減益見込み、非製造業は同12.9%と増益見込みとなっている。

□企業の景況感（ ↘ ）

全規模（全産業）で「下降」超に転じている。

法人企業景気予測調査（23年10-12月期調査）の**景況判断BSI**をみると、全規模（全産業）で「下降」超に転じている。規模別にみると、大企業は「下降」超に転じ、中堅企業は「上昇」超幅が縮小し、中小企業は「下降」超幅が拡大している。

□雇用情勢（ ⇄ ）

厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率は、低い水準で推移している。

新規求人倍率は、低い水準で推移している。

新規求人数は、前年を上回っている。

雇用保険受給者実人員は、引き続き減少している。

（参考）輸出入

輸出はおおむね横ばいとなっている。輸入は前年を上回っている。

横浜港の通関実績をみると、輸出は主要品目では自動車などが増加しているものの、自動車の部分品などが減少したのに加え、半導体製造装置等が減少していることから、おおむね横ばいとなっている。輸入は鉱物性燃料等の増加により、前年を上回っている。

「ヒアリング結果」

【非製造業】

- ・消費者の購買意欲を減退させる円高や株安などの要因があるにもかかわらず、高額商品が売れている。(百貨店)
- ・年末商戦は好調。クリスマスケーキの予約が好調だったほか、おせちの予約も大幅増で品切れの商品もあった。(百貨店)
- ・10～11月にかけては気温が高く、鍋関連の商品の売上が良くなかったが、直近はだいぶ寒くなってきたので持ち直してきている。(スーパー)
- ・自前のお弁当が増えたためか、コンビニでお弁当を買う人が減っている一方、持ってきたお弁当にプラスするための一品惣菜の売れ行きが好調。(コンビニ)
- ・12月に入って寒さが増したことからコート類が売れている。ウォームビズ商品もよく売れているが、クールビズほどのインパクトはない。(紳士服)
- ・タイの洪水、欧州危機の影響のせいか、製造業などの利用者と二次会利用が減少している。(飲食店)
- ・タイの洪水の影響により、カーナビの納品が大幅に遅れており、納車にも影響が出ている。バッテリーも同様で納車が遅れる要因になっている。(自動車販売)
- ・去年はエコポイント制度変更前の駆け込みが大きかったことなどから、売上の前年比は大幅減。しかし、客数自体に変動はないため、家電製品自体への魅力が消えたものではない。(家電量販店)
- ・県内のマーケットは堅調だが、11月以降、住宅展示場への来場者が減少している。県内の顧客層はメーカー系が多いため、欧州の金融不安やタイの洪水の影響等の先行きを不安視しているようだ。(不動産)
- ・復興需要により、県内の業者間の競争が緩和されることを期待しているが、まだそのような動きはない。一方で、職工が不足し、確保するための工賃が割高になっており、利益の減少要因になっている。(建設)

【製造業】

- ・国内では地デジ化後のTV用液晶の需要が減っている。また、スマートフォンやタブレット端末の液晶は、ディスプレイ部分が小さく、数量が出ては寄与度は小さい。(化学)
- ・タイの洪水の影響によって代替生産が生じ、当社にとってはプラスの面が大きい。ただし、10～11月にかけて欧米向けの需要が徐々に落ちてきている。(非鉄金属)
- ・6月頃から、主要な海外販売先(中国、インド、東南アジア、韓国等)において経済の減速感があり、海外売上高は上期に比べて大幅に減少している。(一般機械)
- ・震災により企業に投資を抑える動きが広がっている。最近では4～6月期に比べると売上は戻ってきているが、先行きの不透明感から投資マインドは冷えている。(一般機械)
- ・タイの洪水は、HDDやデジタル家電向けの影響が大きく、また、自動車関係への影響も出ている。当社の場合、タイの洪水の方が、震災よりも影響は大きい。(情報通信機械)
- ・スマートフォン等モバイル端末市場が好調で、特にアジア(中国、インド等)では、携帯電話サービスの普及拡大に伴い、需要は大幅に増加。(電気機械)
- ・新興国を中心に販売台数が伸びているため、国内の生産台数を増やして対応している。(自動車)
- ・震災の影響から受注残を相当数抱えているところに、復興需要も加わって、9月以降増産となっており、前年を上回っている状態。(自動車)
- ・国内の造船会社は、受注残がわずかであり、なんとか操業を維持している。(造船)

【雇用】

- ・人手不足のために臨時従業員を募集しており、グループ企業からの応援も得ている。(自動車)
- ・海外展開するための人員が不足しているため、即戦力となる人材を集めている。(金属製品)

県内経済情勢における判断比較

前 回 平成23年7-9月期	表現の 変化方向	今 回 平成23年10-12月期
天気マーク 		
総括判断 厳しい状況にあるものの、上向きの動きが続いている。		厳しい状況にあるなか、 <u>おおむね横ばいの動きとなっている。</u>
個人消費 緩やかな持ち直しの動きがみられる。		<u>おおむね横ばいとなっている。</u>
住宅建設 前年を上回っている。		前年を上回っている。
設備投資 23年度は増加見通しとなっている。		23年度は増加見込みとなっている。
生産活動 持ち直しの動きが続いているものの、このところ弱い動きがみられる。		<u>おおむね横ばいとなっている。</u>
企業収益 23年度は増益見通しとなっている。		23年度は増益見込みとなっている。
企業の 景況感 全規模(全産業)で「上昇」超に転じている。		全規模(全産業)で「 <u>下降</u> 」超に転じている。
雇用情勢 厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。		厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。
(参考) 輸出入		輸出はおおむね横ばいとなっている。 輸入は前年を上回っている。

最近の県内経済情勢

「資料編」

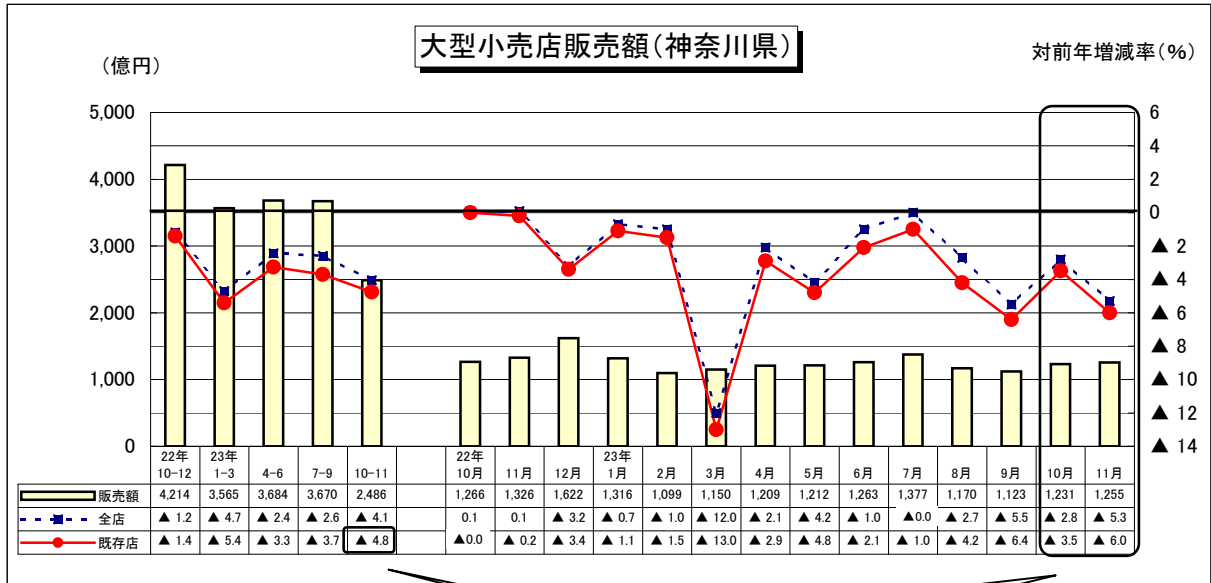
平成24年1月25日（水）

財務省関東財務局

横浜財務事務所

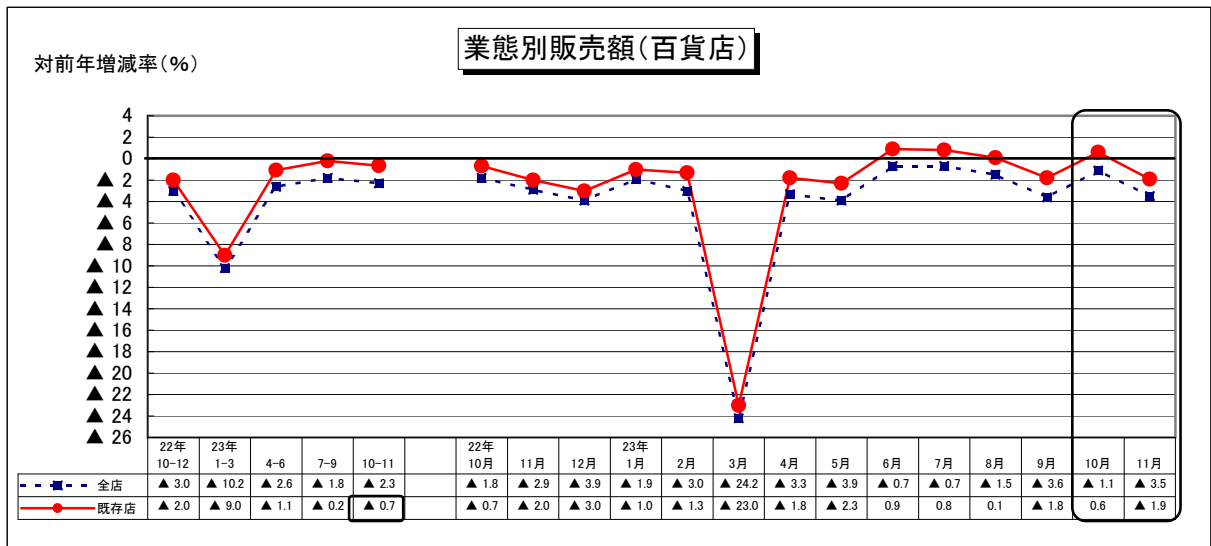
1. 個人消費

おおむね横ばいとなっている。

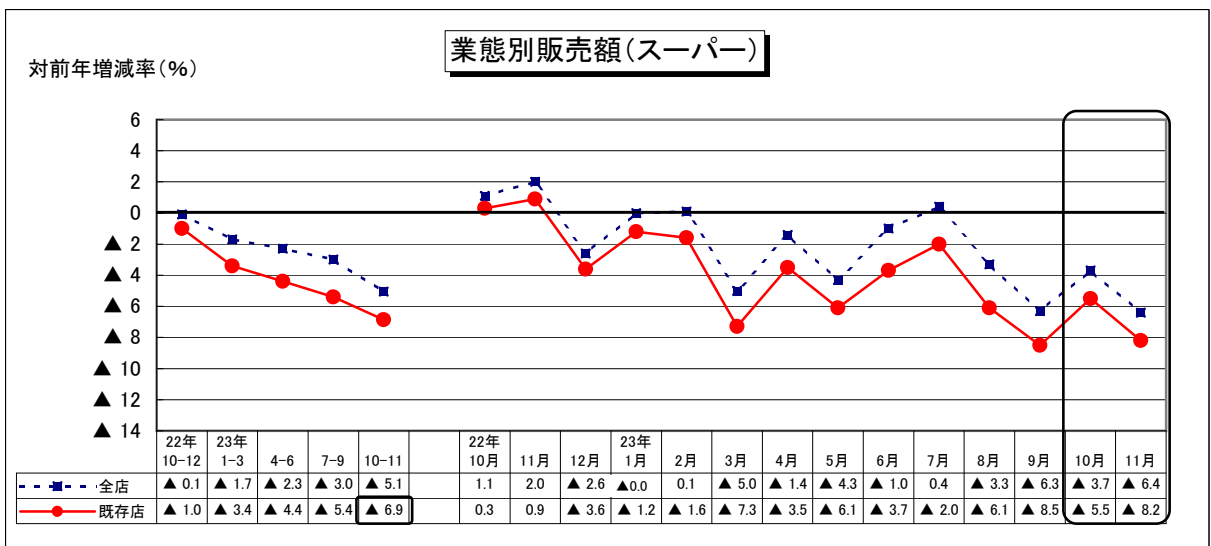


【経済産業省】

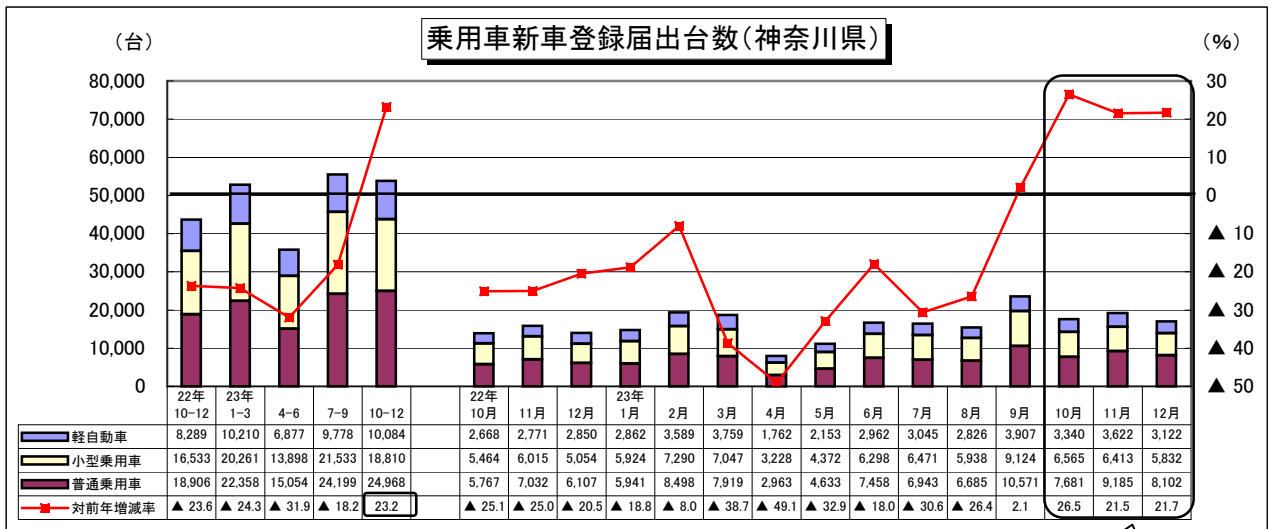
前年を下回っている



【経済産業省】

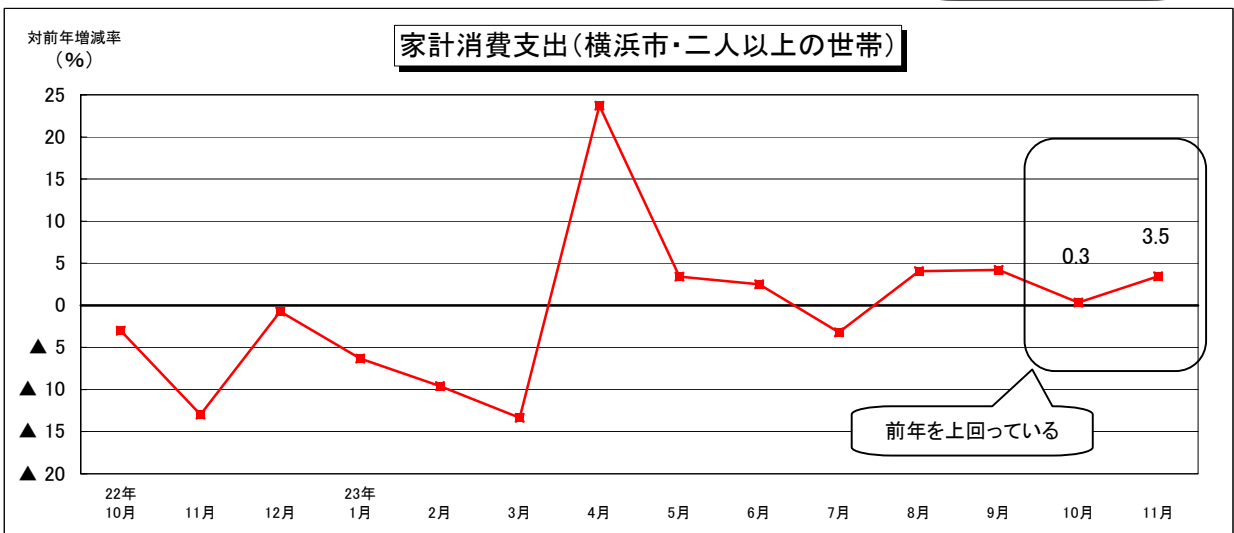


【経済産業省】



【日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会】

前年を上回っている

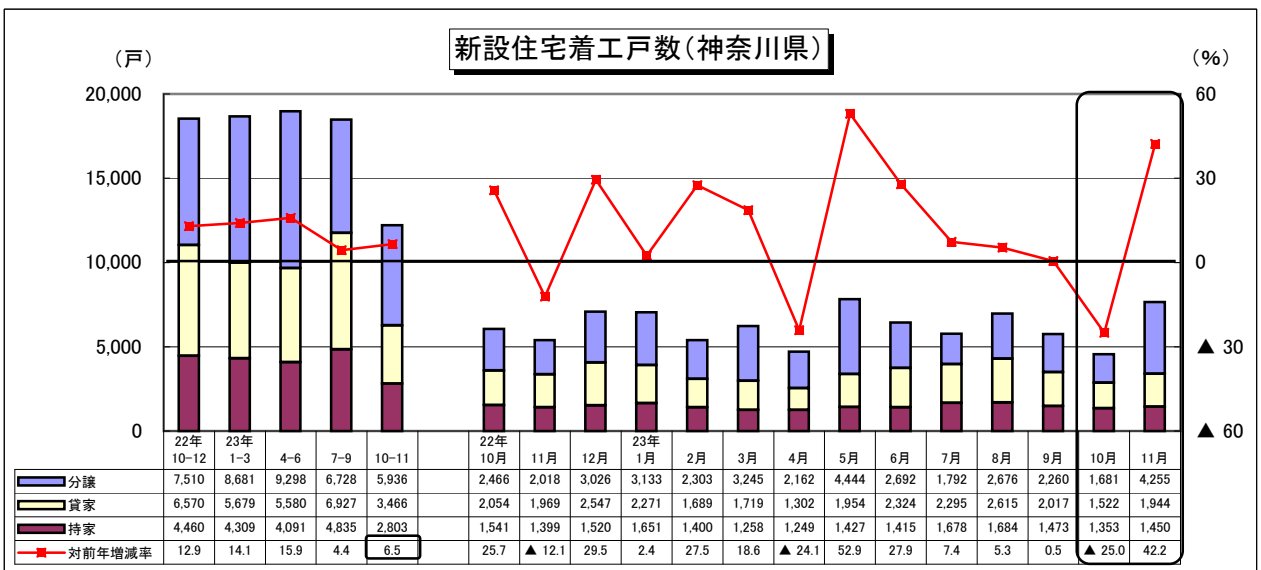


【総務省】

前年を上回っている

2. 住宅建設

前年を上回っている。

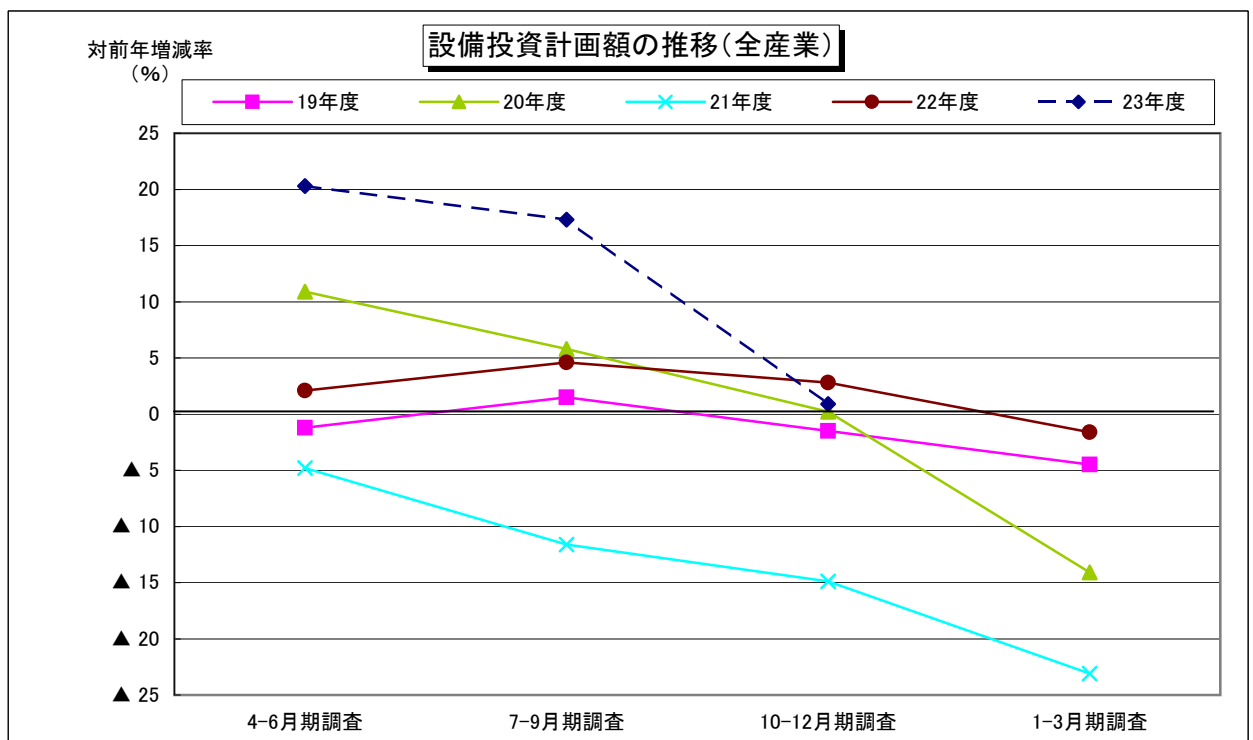
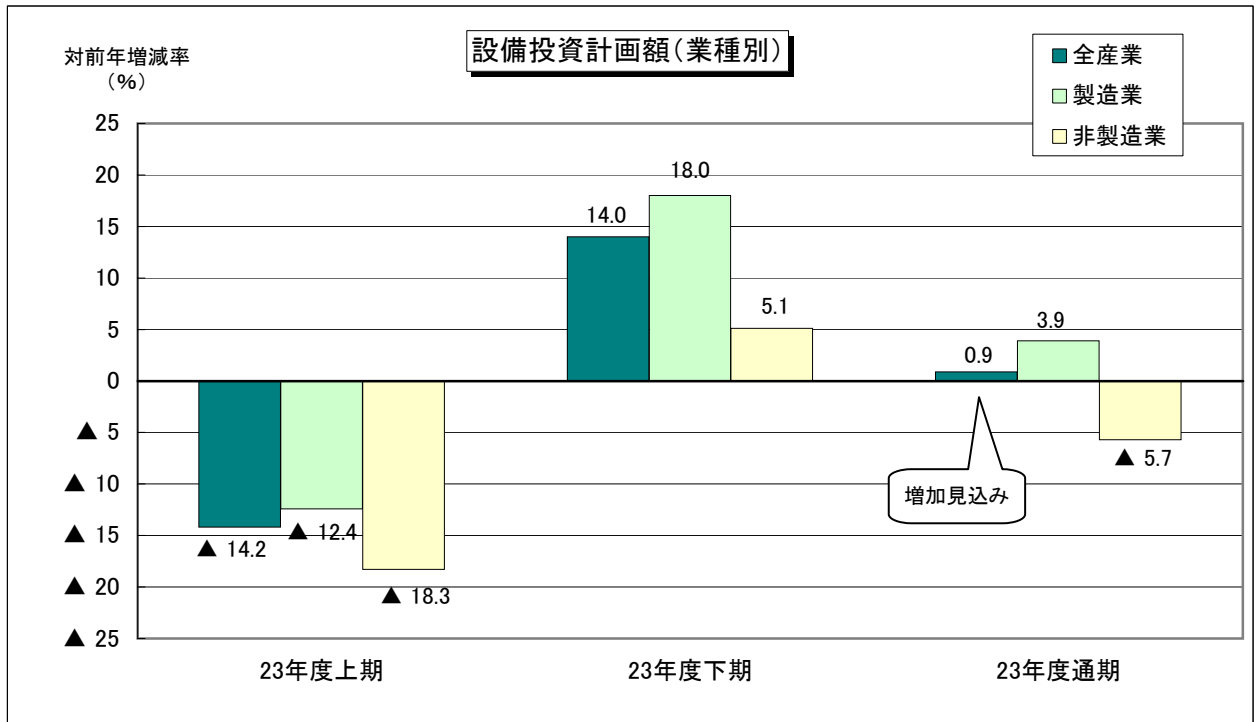


【国土交通省】

(注) 増減率には給与住宅も含む。

3. 設備投資

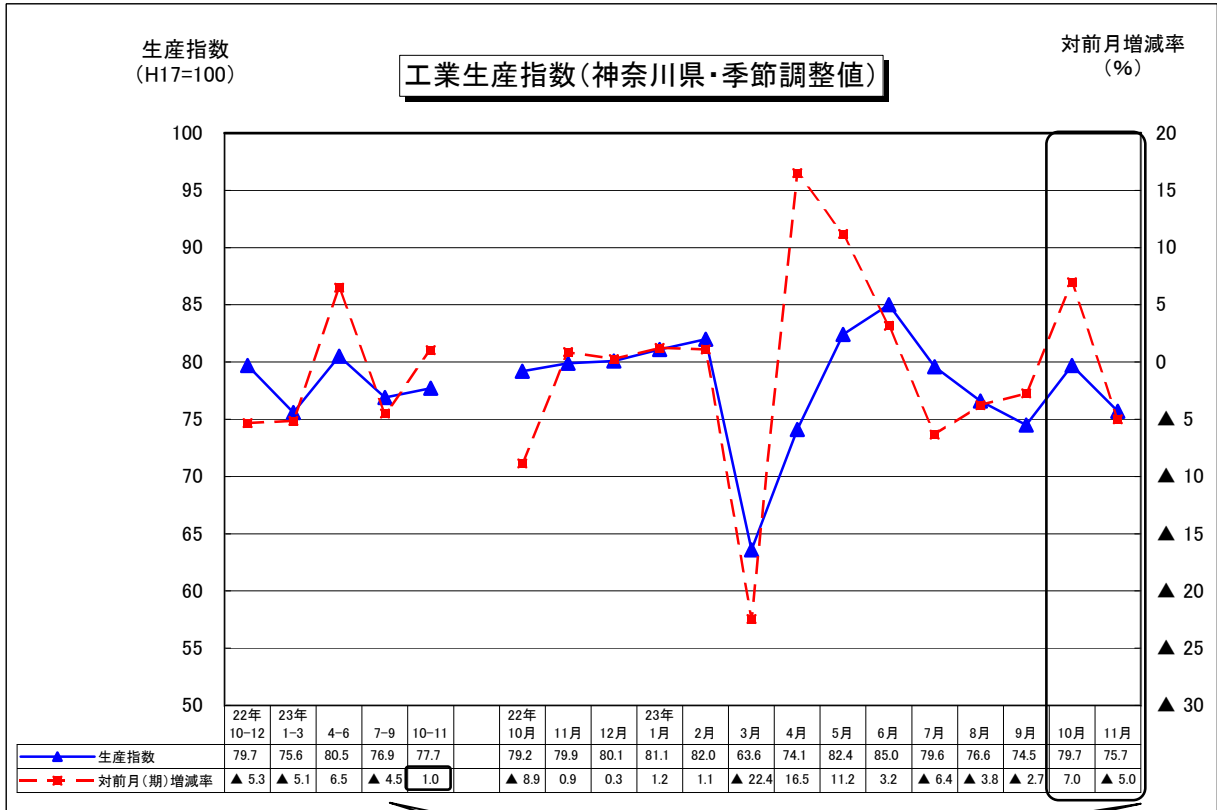
23年度は増加見込みとなっている。



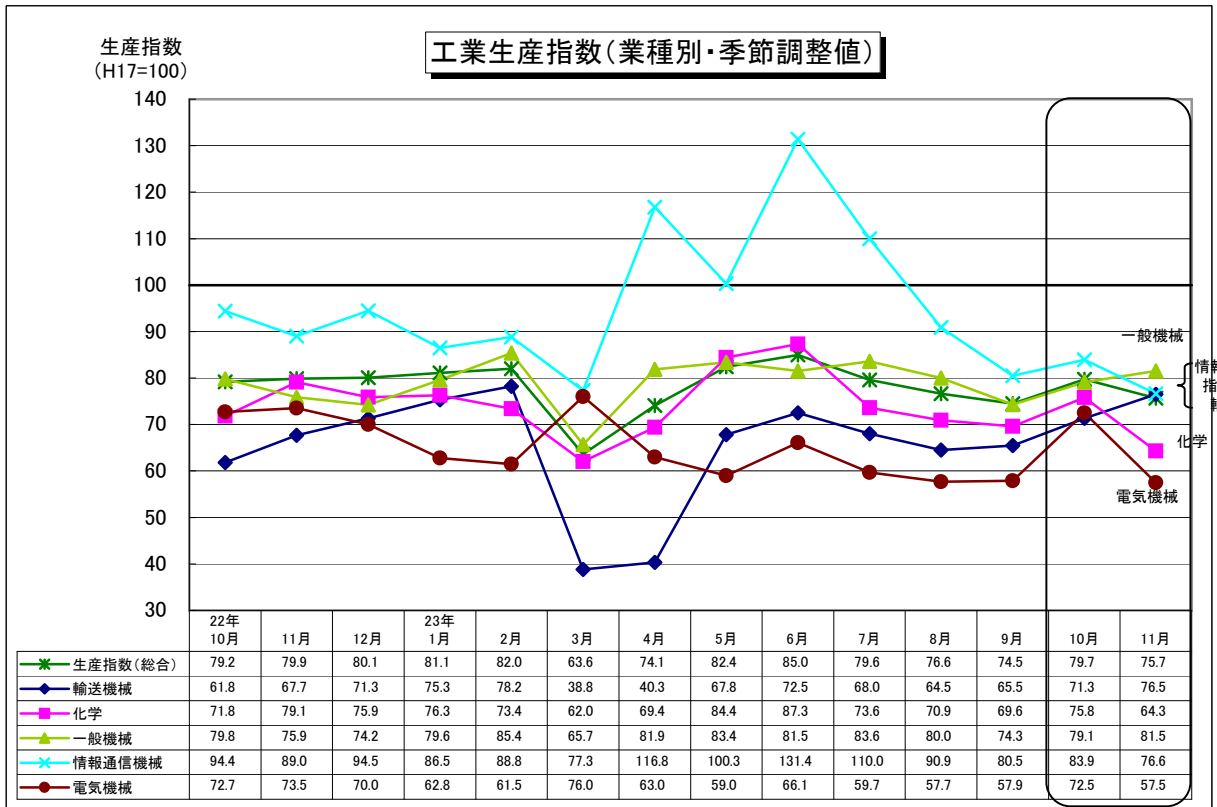
【法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)】

4. 生産活動

おおむね横ばいとなっている。



おおむね横ばいとなっている

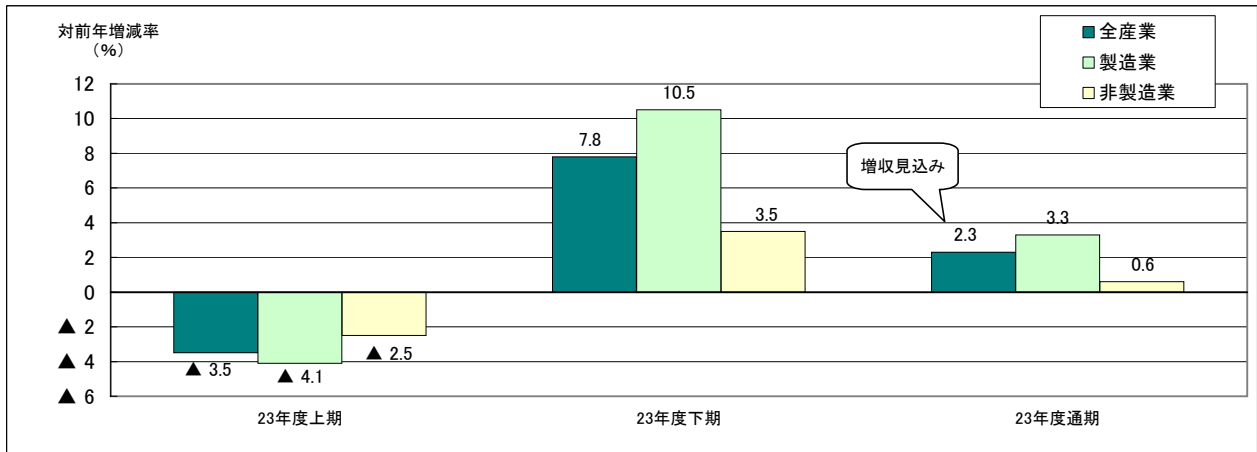


【神奈川県】 ※11月は速報値

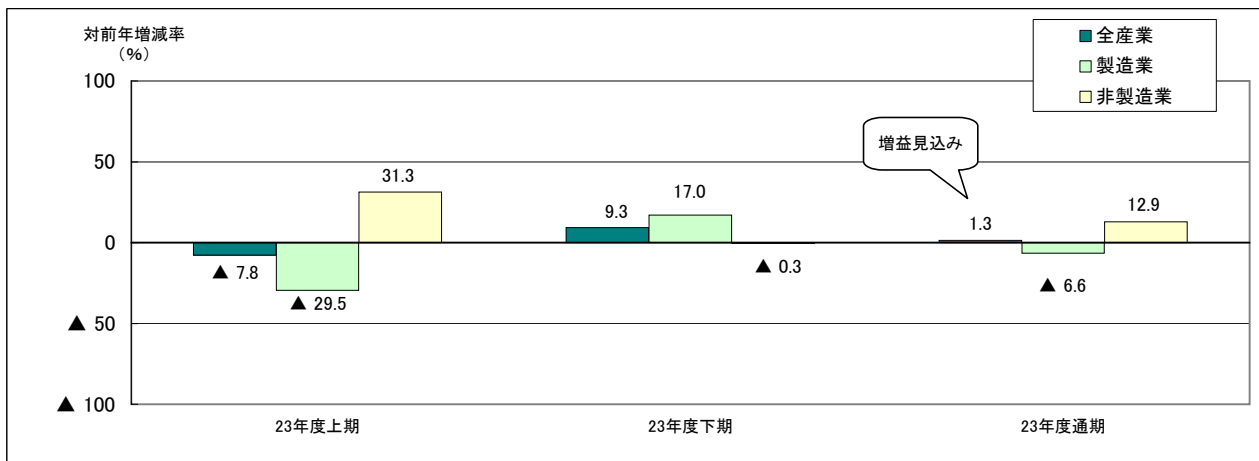
5. 企業収益

23年度は増益見込みとなっている。

①売上高



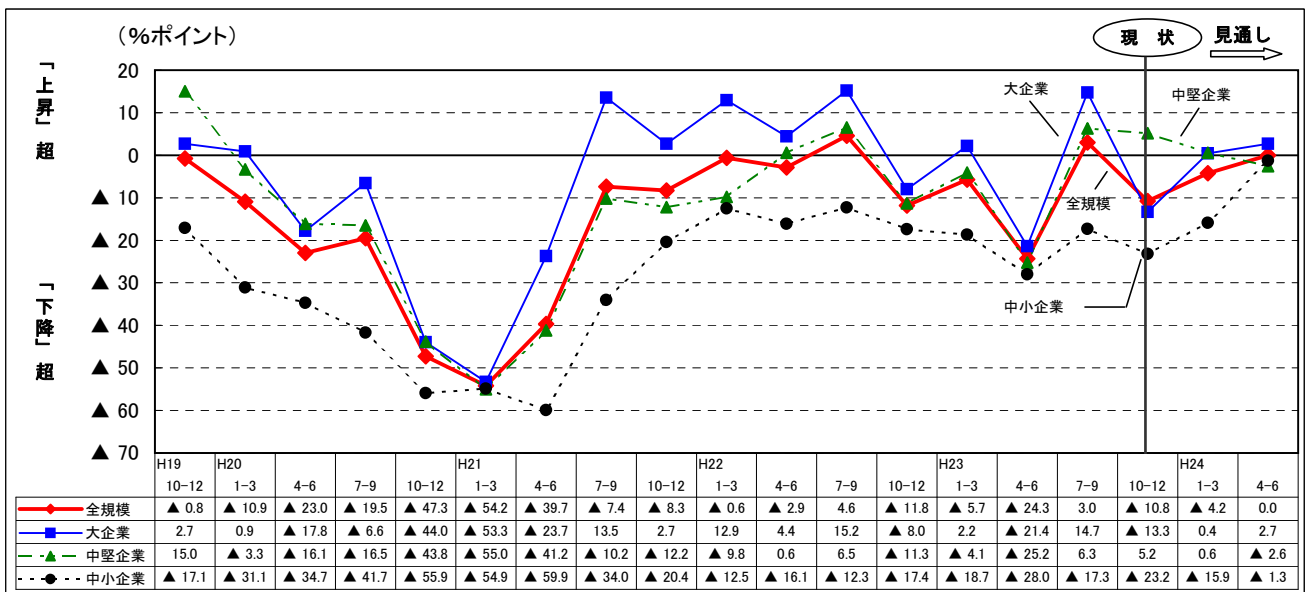
②経常利益



【法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)】

6. 企業の景況感

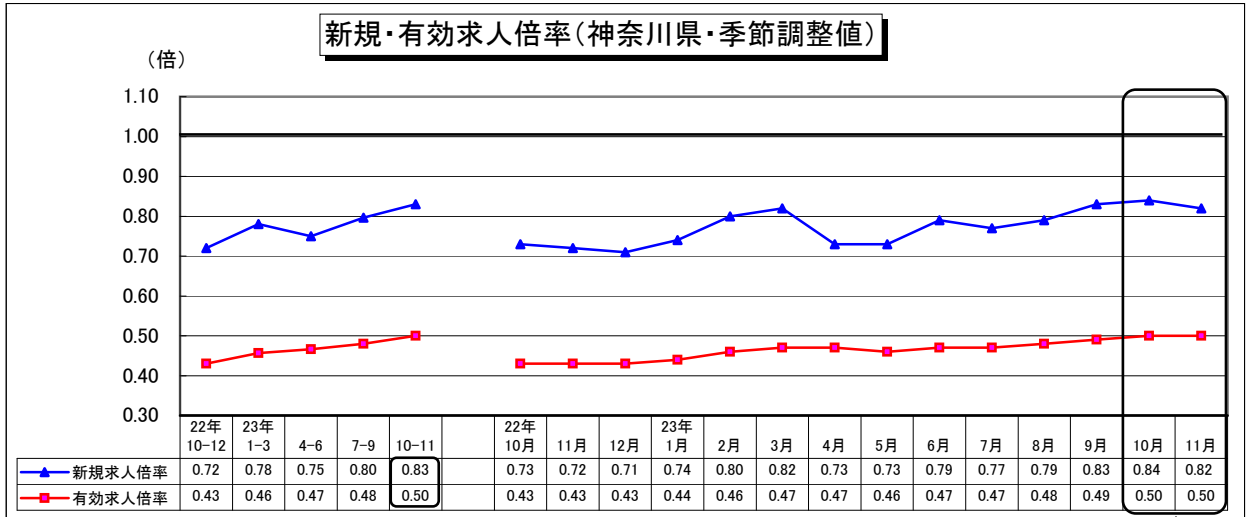
全規模(全産業)で「下降」超に転じている。



【法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)】

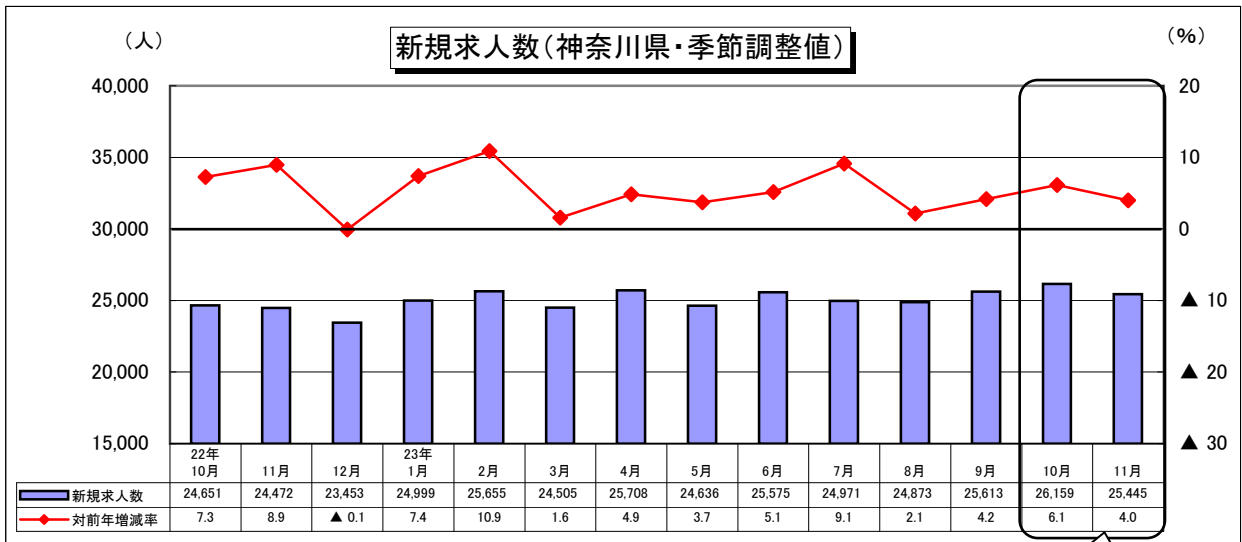
7. 雇用情勢

厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。



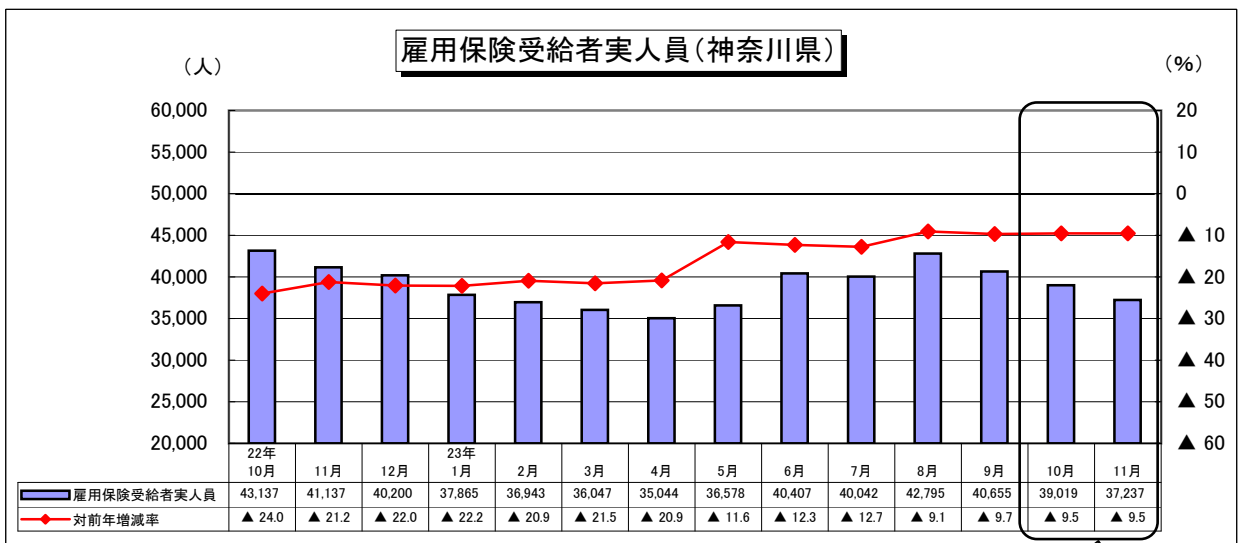
【厚生労働省】

低い水準で推移している



【厚生労働省】

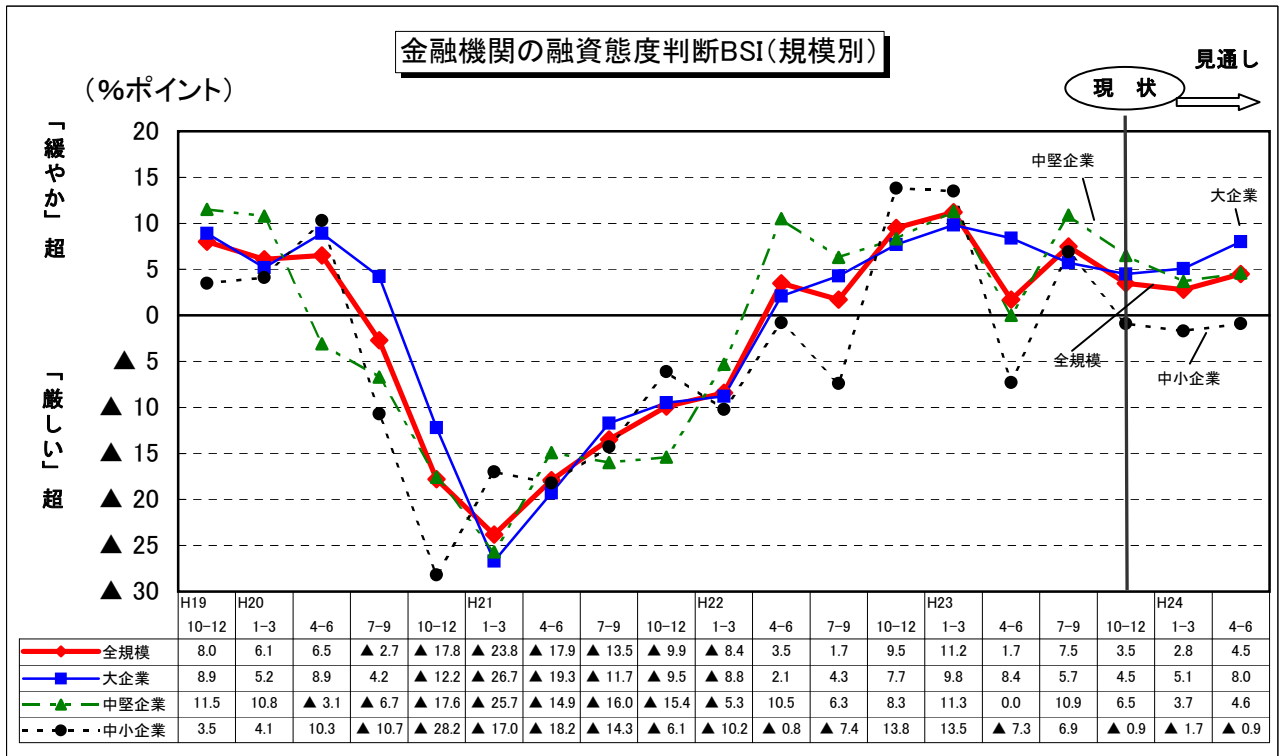
前年を上回っている



【神奈川県労働局】

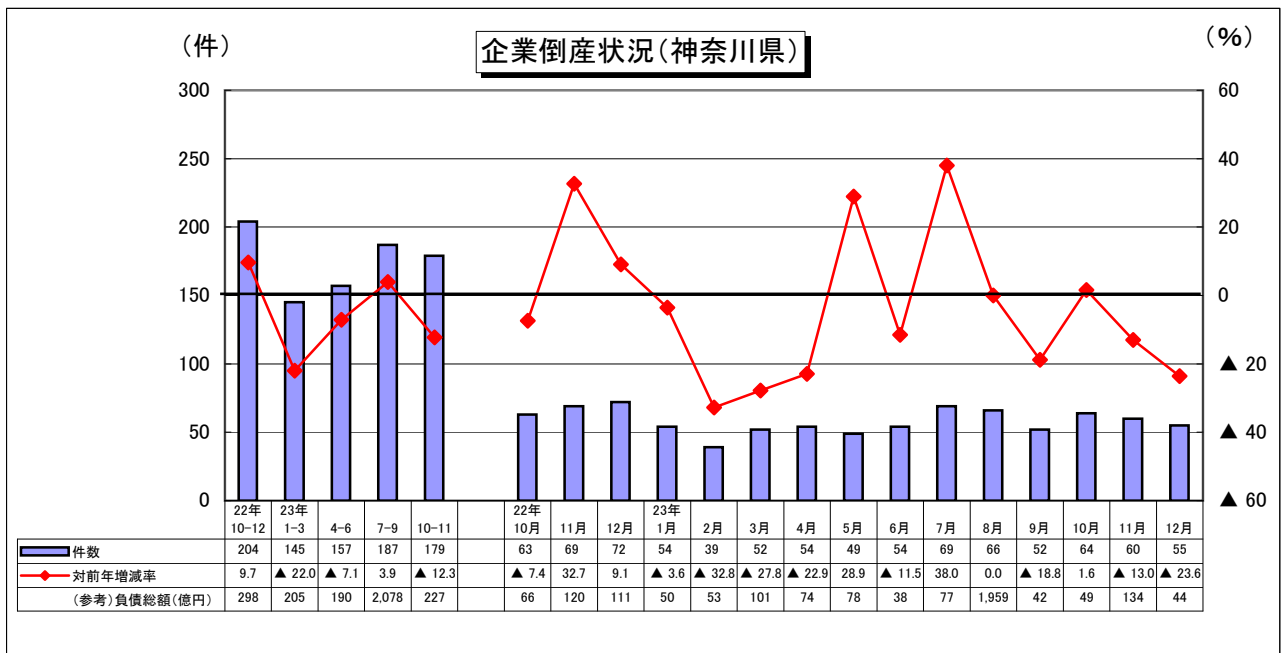
引き続き減少している

8. 企業金融(除「金融業、保険業」)



【法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)】

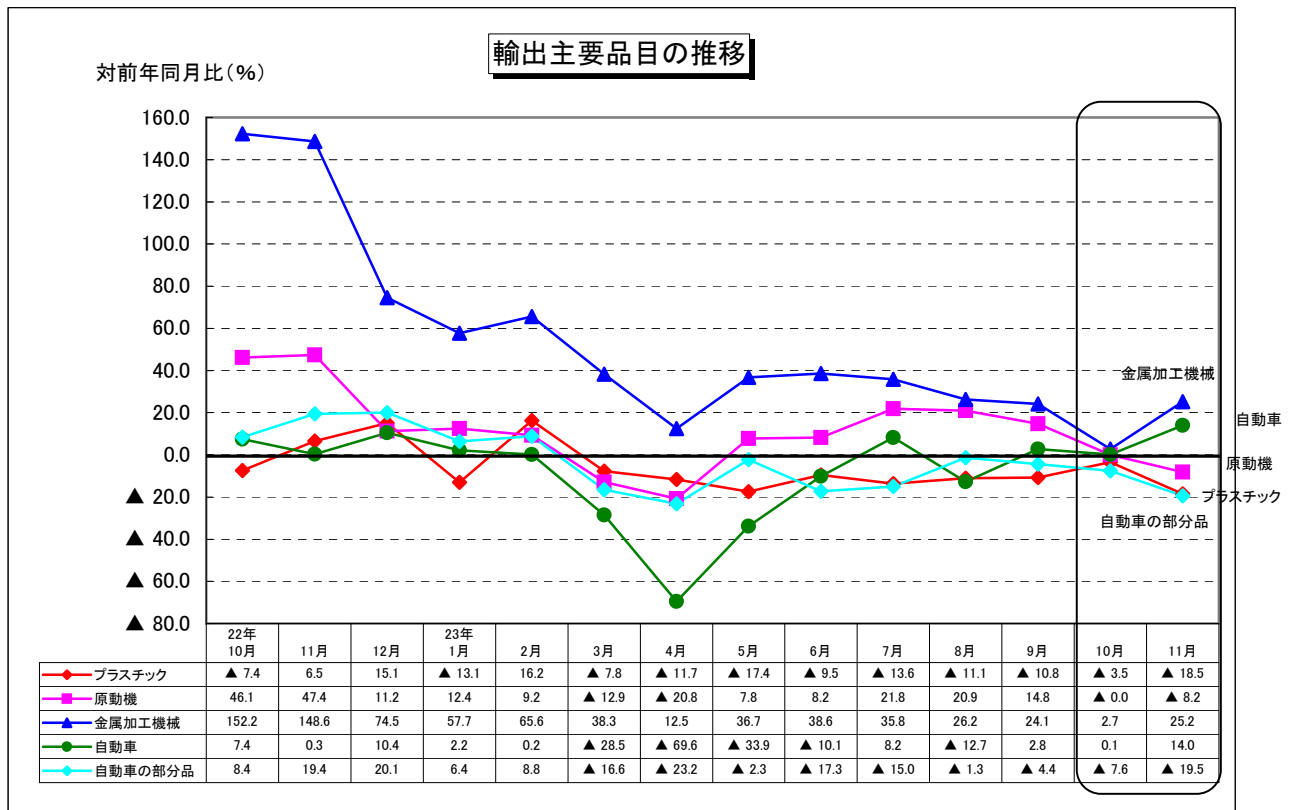
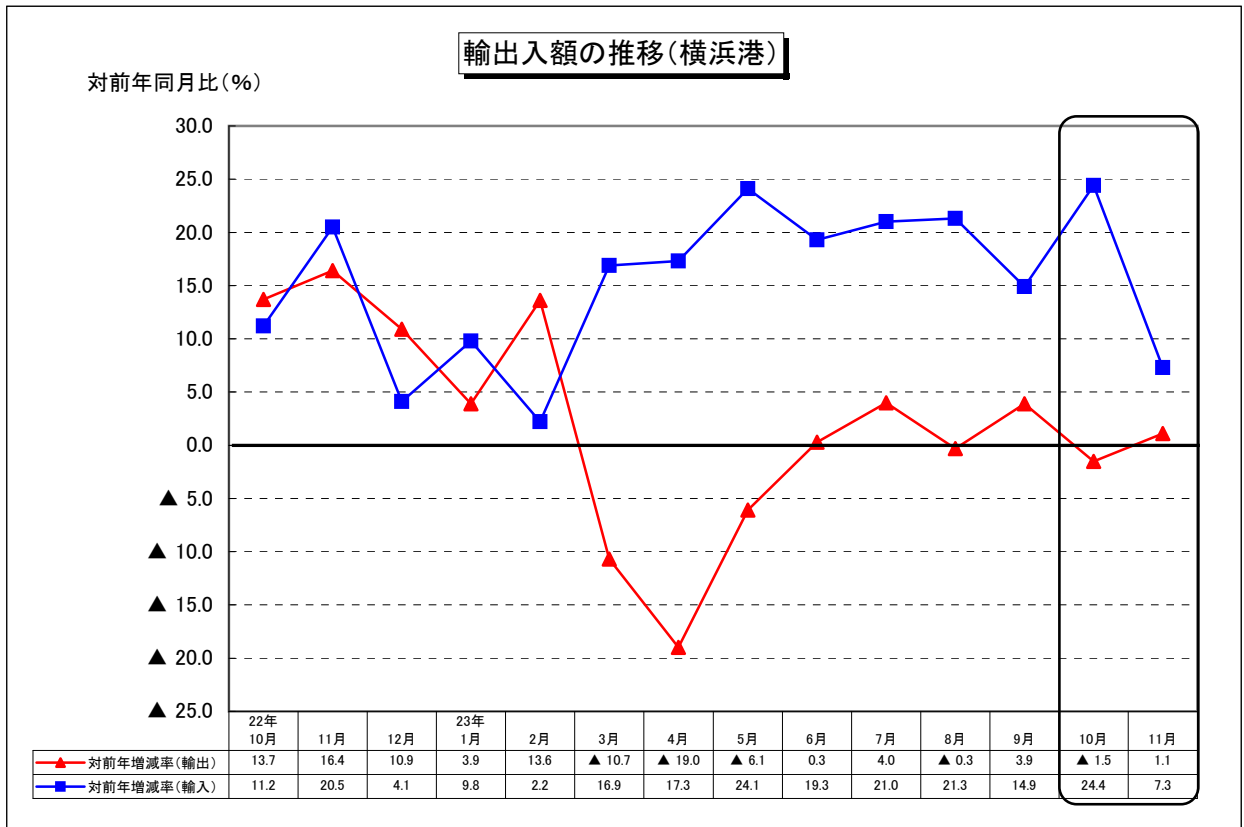
9. 倒産



【(株)東京商工リサーチ】

(参考) 輸出入

輸出はおおむね横ばいとなっている。輸入は前年を上回っている。



【横浜税関】